

悠 久

第 61 号 March 2023

本号の内容

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| ① しばらく「旅」をしていませんが・・・ | 岡山県日中教育交流協議会 会 長 岡 本 啓 |
| ② 3 年目を迎えた上海市奉賢区
惠 敏 学 校 と の 交 流 | 岡山県立東備支援学校 中学部教頭 岡 本 尚 久 |
| ③ 引 っ 越 し で き な い 隣 人 中 国 | 日本 IT ビジネスカレッジ 校 長 山 中 孝 志 |
| ④ 岡山県中国留学生学友会の紹介 | 会 長 李 想 |



四川劇 変面（表演者：王 文強 氏 2023年日中新春互礼会にて）

岡山県日中教育交流協議会

会 長 岡 本 啓



しばらく「旅」をしていませんが・・・

今年、中学校や高校を卒業する生徒の皆さんは、マスクを着け、人と距離を置き、黙って食事をするコロナ禍の中の三年間を過ごしてきました。

岡山と上海市や大連市との間で十四回、延べ三百人を上回る高校生の相互交流を行ってきた「日中青年交流事業」も三年にわたり「休止」することになりました。（平成二十一年度も新型インフルエンザの流行で休止した）

しかし、直接の往来は叶わなくとも何とか交流を継続しようとして、これまで培ってきた中国側との「つながり」を生かして、インターネットを介しての「新しい形」の交流を工夫してきました。

この交流には、これまでの高等学校に加え、中学校や特別支援学校、さらに小学校まで、児童生徒・教職員が、大型画面を通して演奏や歌や踊り、学習や生活の様子などを発表し合い交流することで、今までにない広がりが生まれました。

「論語」を紹介した小学校の交流、学年・学級単位の五百人の大人数での中学生交流もありました。画面越しでも、同世代の子どもたちと「登下校」や「放課後」の様子や、「夢」や「楽しみ」、「困っていること」などを尋ね合ったりすることで、お互いに興味を持ち、理解が進んでいく様子がうかがえます。

交流会の後、母親から「言葉が通じないのに、どんなふうに交流できたの？」と問われた小学生が次のように書いています。『何となく交流できた』のが本心だ。でも、この『何となく』が大切だとわかった。つまり、言葉ではなく、伝えたい気持ちと気持ちが伝わったのだと思う。（本誌第五十九号）

「相互理解」、「違いは違いとして互いを認め尊重し合うこと」を交流体験を通じて、肌身に感じて学ぶことができる青少年交流は、より重要性を増していると思います。

こういう時代だからこそ、今だからできることに協議会として取り組み、協議会の使命を果たすべく一層の努力をします。

3年目を迎えた

上海市奉賢区恵敏学校との交流

岡山県立東備支援学校

中学部教頭 岡本 尚久

【はじめに】

本校は、備前市にある知的障害のある児童生徒たちが通う特別支援学校です。小学部・中学部・高等部があり、今年度は合計126名の児童生徒が在籍しています。今年度からコミュニティ・スクール（学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組み）を立ち上げました。「地域の中で・地域とともに・地域のために」を合言葉に、地域の方々にお力を借りながら、様々な地域協働活動に取り組んでいます。

上海市奉賢区恵敏学校と本校中学部との交流は、令和2年度に始まりました。当時、私は東備支援配属1年目で高等部に所属しており、「中学部は外国と交流をしていますすごいなあ」と傍目で見えてきました。そして、正直なことを



いえば「言葉の違いもあるし、連絡や調整など、大変だろう。」とも。まさかその後、自分が中学部に移り、昨年度、今年度とこの交流に深く関わり、原稿を書かせていただくことになるとは夢にも思っていませんでした。

昨年は日中国交正常化50周年の節目の年でした。余談ではありますが、実は私も50歳です。幼少の頃、日本はまだパンダブーム覚めやらぬときで、我が家にも大きなパンダのぬいぐるみがありました。このような記念すべき節目の年に、私が交流に関わらせていただけたのも何かの「ご縁」だと感

じております。

【オンライン交流の実際】

今年度のオンライン交流は当初10月の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で順延された上での開催となりました。思い返せば、1年目・2年目とも内容の変更や延期を経て交流を実行してきました。日中双方の状況が刻々と変化する中、3年目の今年も無事開催できたことがまず喜ばしいことであり、有難いことだと



思っています。連絡・調整等、準備に携わってくださった皆様のご尽力に感謝申し上げます。

今回東備支援学校側は、中1から中3まで、欠席者を除く中学部の全生徒19名と、校長をはじめ中学部の教員9名が参加しました。

交流会プログラム

日時…令和4年11月8日（火）

10…40～11…50

- (1) 日中双方出席者紹介
- (2) 挨拶（本校校長・恵敏学校校長）
- (3) 日中双方のビデオ上映及び紹介
- ① 本校動画（質疑応答）
- ② 恵敏学校動画（質疑応答）
- (4) 恵敏学校からのライブホッケー、提灯を回す演技の実演
- (5) 本校からのライブ窯業班（備前焼）の作業紹介
- (6) 生徒代表挨拶（本校・恵敏学校）
- (7) 集合写真撮影

生徒の様子

本校生徒の障害の種類や程度は様々で、全体での話を傾聴することや、画面に注目し続けることが難しい生徒もいます。しかし、恵敏学校の紹介ビデオの完成度は素晴らしく、日々の学校生活の様子が手に取るように伝わってきます。スクリーンに映し出される恵敏学校の子どもや先生たちの姿に、生徒たちは興味・関心をもち、ほとんどの生徒が最後まで画面に注目し、説明の内容を聴き、



「おめでとう」

感嘆の声を上げたり驚いた表情をみせたりしていました。

昨年度・今年度と続けて交流会に関わらせていただいていた一番に感じることは、生徒たちは我々が感じるような言葉や文化などの違いを「壁」とは感じていないのだなということでした。国や言葉や文化が違って、生徒たちにとって、画面の向こうの恵敏学校の生徒も同じ子どもであり、臆することなく会に臨む彼らの姿から学ぶことは非常に大きいとあらためて感じました。

とはいえ、日本から遠く離れた地に中国という国があり、その国の皆さんと交流を行っていることを理解し、映像や説明に興味をもって見聴きする生徒、普段見ている服装や景色や、聞こえてくる言葉との違いを感じる生徒など、学びは様々ですが、それぞれの生徒なりに、学びの広がりがあったことは間違いありません。これから

も、日中双方の生徒たちにとって意義のある活動として、交流会を続けていけたらと考えています。コロナ禍が終息し、いつか対面での交流会ができることを夢見て・・・。

最後に、今回も交流をご支援いただいた岡山市日中友好協会松井三平専務理事、岡山県日中教育交流協議会の岡本啓会長、大川泰榮事務局長をはじめ上海市人民対外友好協会、通訳の皆さん、そして恵敏学校の先生方、生徒の皆さんのご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。



引っ越しできない隣人中国

学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ

副理事長 橋口博州

学校法人せとうち 日本ITビジネスカレッジは岡山県瀬戸内市に2018年4月に開校したITと介護福祉を学ぶ専門学校です。また、2023年4月には日本語科も開設します。

本校は廃校となった小学校を再生利用し、留学生を中心とした人材の育成と地方創生を理念に掲げ、多方面にわたる活動をしています。運営母体であるアジアマーケティンググループでは、留学生への教育にとどまらず、卒業生の受け皿となるIT企業の経営や、日本語とビジネスマナーを学べるアプリ「Learn



「To Work」のシステム部分を開発するなど、育成した人材が活躍できる仕組み作りにも力を注いでいます。

岡山は地政学的に 有利な土地

本校は2013年に廃校になった瀬戸内市の玉津小学校の跡地利用公募に、理事長の田中句一が設立したアジアマーケティング株式会社が応募して、採択されたのが始まりです。2018年4月に専門学校として開校し、現在は中国やベトナム、インド、ミャンマー、イスラエル、日本など10か国、41名の学生が在籍しています。

現在、中国留学生が1名在籍しています。コロナ禍以前は20名以上いましたので大幅に減少しましたが、2023年度からまた増える予定です。

2018年の開校以来、短期間で日本において就職できるスキームを立ち上げ、中国へ学生募集のため毎年2回以上出向いています。2019年には20名が本校へ進学しました。

本校は留学生を中心とした学校なので、週に1回は日本語の授業を行っています。日本人学生はその時間、中国語の勉強をしています。

本校は、オーダーマイド教育（注：文式教育）という形を取っており、学生のニーズに応じて企業の方に授業をしていただいています。また、優秀な学生は、2年生から積極的にインターシップにも行ってもらっています。

グローバル人材を日本に呼び込み、我々の学校で即戦力となる教育をした上で、就職にまで結び付けたと思っています。就職率は、90%以上です。

瀬戸内市は田中理事長の故郷であり、もちろん故郷を活性化させたいという想いもあったと思いますが、なんといっても岡山県は地政学的にとっても有利な土地だといえます。四国があるから台風や津波も上手く抜けてくれ、地震のプレートも少ないと言われています。原発からも150km離れていて、安全です。今後、日本も含め世界が抱える被災リスクが増大化していく中で、そういった



リスクを回避できるというのは純粋にメリットだと思っています。

引越してできない隣人 中国との関係

本校と中国との関係は強く、最近でもコロナ収束を見据えて、重慶で3千人の日本語学習者を抱える教育機関が2月に視察に訪れました。3月中にはオンラインで現地向けに説明会を開催する予定です。

中国との関係については、私（筆者・橋口博州）は1997年の香港

返還の年に日中交換留学生として中国・武漢大学へ留学をしました。今でこそ新型コロナウイルスをきっかけに世界的に知られた「武漢」ですが、当時は「武漢に留学に行く」といっても、「いったいどこにあるの？聞いたことがない」という反応が大半でした。大洪水にも遭遇し、内陸部の大都市でしたが、経済的にまだまだ発展途上の時期でした。当時はほぼ全寮制で、クーラーも暖房もない部屋で夏は連日40度を超える中、8人部屋で汗水流しながら勉強する中国大学生たちに刺激を受けた2年間でした。



2年の留学を終えて帰国した際、大学の1年生として入学してきたの



が、現理事長の田中句一です。彼も北京へ留学し、中国語を習得しました。帰国して就職したのち、日本人向けの中国語を教える語学学校を始めました。その後福岡でアジアマーケティング株式会社を創業し、中国をはじめ海外へ日本の商品を販売するマーケティング活動を行い、また、それらの国からの人材を日本の教育機関へ紹介する活動と就職を支援する活動を長年行ってきました。そして、就職する際に、企業に求められる人材を輩出するには、前述の「注文式教育」が有効であると考え、本校の設立に至った次第です。

新型コロナウイルスが収束に向かうにつれ、中国からの学生の受け入れを再開します。日本での就職や進学を見据えて、岡山商科大学への三年次編入の提携も行いました。就職難といわれる中国から、日本の文化が好きで縁あって岡山へ来ていただく留学生に、日本のITや介護などの業界の第一線で活躍できるスキルを身に付けていただき、将来は母国に帰っての事業展開や、日中の架け橋として活躍してほしいと考えています。



岡山県中国留学生 学友会の紹介

会長 李 想

一、概要・現状

岡山県中国留学生学友会は一九八〇年に設立され、岡山大学、岡山理科大学、岡山商科大学をはじめとする岡山県内の中国留学生や研究員で構成される団体です。岡山県内唯一で最大の中国留学生団体として、留学生たちが互いに助け合い、情報を共有し、親睦を深めることを目的として、中国留学生と日本及び世界諸国の友人との友好交流のために、岡山県に在籍している中国留学生向けに生活支援や交流促進、地域社会との交流において、様々な支援を提供しています。

岡山県には多くの留学生が在籍しており、現在公開された統計データによると、二〇二〇年には、岡山県内に三千五百七十人の留学生が在籍しており、そのうちの千四百九十八人が中国留学生です。[1]

岡山県中国留学生学友会は学生中心の組織であり、組織内部の各部門の構成も主に学生です。岡山県中国留学生学友会委員会は会長一名、副会長二名、各部長と部員により構成されています。岡山県中国留学生学友会に活動部、宣伝部、生活部、文

芸部、学術部等という部門構成があり、既に就職している人は名誉会員（顧問）として入会しています。各

部門が役割を果たすことで、留学生たちの生活を支援し、岡山県中国留学生学友会の活動を進めています。

二、主要役員の自己紹介

岡山県中国留学生学友会

会長 李 想



私は岡山県中国留学生学友会会長の李想です。出身地は中国の浙江省で

す。岡山理科大学工学部情報工学専攻です。入会してからの4年間、私は仕事の中で中日友好に関する数多くのエピソードを見ました。中日両国は経済的・文化的交流が盛んで、理解し合い、未来を見据え、両国の平和友好関係を長続けることが大事だと思われまます。偏見の壁を打ち破って、積極的に交流することも皆様の努力が欠かせないことです。これからも国際交流を深め、新たな友好関係を築いていきましょう。

岡山県中国留学生学友会

副会長 高 雨

私は中国湖北省出身で、岡山大学社会文化科学研究科の博士2年の高雨です。自分の研究は、リーダーシップをグローバル・シテイズンシップ教育における重要な要素の一つであると考えています。私は副会長として、留学生の生活を実際に豊かにするための活動を、会長を補佐するように努めます。同時に、私は、留学生一人ひとりがリーダーシップを発揮し、個性があるリーダーになることを積極的に行いたいと考えています。そして、日中友好に貢献できることを期待しています。

岡山県中国留学生学友会

活動部長 伍 晟

伍晟と申します。中国江西省出身で、大学卒業後、岡山大学の大学院に進学しました。現在、岡山大学社会文化科学研究科で言語学の研究をしています。将来の抱負としては、自己研鑽を続け、自分の知識で社会や中日両国に貢献することです。また、グローバルな視野を持ち、日本での経験を積んで活かし、異文化理解を深めることもとても大切だと考

えています。

三、活動の紹介・中日友好 青少年の交流への期待

毎年、新入生を迎えるための歓迎会や、日本の文化や風習を体験するイベント、スポーツ大会などを開催しています。これらの活動を通じて、留学生たちは日本の文化や社会に理解を深め、友人や仲間を作ることができます。

学生たちの交流や生活支援を目的として活動しています。留学生生活を充実させるためのイベントや、社会貢献活動、中国留学生と他国の学生との交流など、様々な活動を行っています。

岡山県中国留学生学友会の主な役割としては、学生たちの生活支援や両国の交流促進、地域社会との交流、さらには学生たちの権利や利益を保護することが挙げられます。岡山県中国留学生学友会はまた、留学生たちの就職支援にも力を入れています。岡山県中国留学生学友会は、留学生たちに対して、WeChatで就職に必要な情報や知識の提供、履歴書や面接の練習などのサポートを

行っています。

岡山県中国留学生学友会は、中日両国の青少年交流を促進することも目的であり、今後も積極的に中日友好青少年交流の推進に取り組んでいきます。

毎年日中友好協会と連携して開催される沢山の中日友好交流活動だけではなく、今後岡山県中国留学生学友会はより多く中日文化交流イベントを企画、実施して、中国の留学生たちと日本の青少年たちがお互いの文化を理解し、友好関係を築くことが望んでいます。岡山県中国留学生



学友会は、留学生たちが日本で学ぶ中から得た知識や経験を共有し、中国の青少年たちにも広く伝えることで、中日の文化交流をより深め、相互理解を深めます。

中日友好の推進も岡山県中国留学生学友会の大きな使命の一つとなっています。今後も岡山県中国留学生学友会は、留学生たちが安心して日本での学びや生活を送ることができるよう、中日友好青少年交流の促進に努めます。

四、おわりに

岡山県中国留学生学友会の活動は、中日友好を促進することにもつながっています。留学生たちは異なる文化背景を持ちながらも、共通点や相互理解を深めることができます。岡山県中国留学生学友会は、留学生たちが国際交流を通じて、中日友好を育む機会を提供しています。中国留学生たちは、日本での学びや生活を通じて、日本の文化や習慣を学び、同時に自らの文化を日本の方々に紹介することもできます。今後も岡山県中国留学生学友会はより多くの団体との交流を期待して、中

国と日本の友好関係の発展に貢献していきます。

[1] eStat政府統計の窓口 <https://www.e-stat.go.jp/dv/view?sid=0003416093>
(閲覧日2023.3.10)





bene(よく)+ esse(生きる)
Benesse=「よく生きる」



株式会社ベネッセホールディングス

〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
<https://www.benesse-hd.co.jp/>

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校 通信制課程

海外に居ながら日本の高等学校を卒業。
日本の大学で学び、世界で活躍する人になる。



〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
Phone : 086-256-8562 / Fax : 086-256-8563
Web : <https://www.r2hs.jp>
Mail : otoiawase@r2hs.jp



株式会社英田エンジニアリング

701-2603 岡山県美作市三保原 678

株式会社英田（あいだ）エンジニアリング

代表取締役 万殿貴志

営業品目

冷間ロール成形機・造管機及びフォーミングロール

無人駐車場管理機器 i/lock（アイシャロック）

アイアクセル

環境整備用破碎機粉砕機用刃物 各種金型

岡山県日中教育交流協議会とは、

- 1 学校、団体、個人を会員とする民間団体です。
- 2 会費は、年会費（4月～翌年3月）です。
団体（教育委員会・学校園）・・・3,000円、個人・・・2,000円
- 3 主な活動内容は、
 - (1) 中国との教育交流（リモート交流での技術面のサポートも含みます。）
 - (2) 交流校の紹介、講師の派遣、各種資料の提供、教育事情調査団派遣等
 - (3) 会報「悠久」の発行（県内小中学校、高等学校、教育委員会へ無料配布）
 - (4) 日中青少年交流事業－STUDENT EXCHANGE 事業－
 - (5) 交流活動発表会開催や教育交流実態調査等

岡山県教育交流協議会は、会費と助成金、補助金で活動しています。この機会に、是非ご入会ください。

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第61号

発行：令和5年3月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041